

# 平成30年度

経済学部

帰国生徒入試

小論文

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
2. この問題冊子は、全部で5ページ、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。試験開始の合図があってから確認すること。  
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。氏名を書いてはいけない。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。解答は、解答用紙の所定欄に記入しなさい。  
解答用紙の所定欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。
5. 配布された問題冊子および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。

実施年月日
29.11.29
富山大学

【問題 1】 次の文章を読んで、[設問 1] から [設問 4] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

バーガー長官（注 1）の発言にもあるように、日本人には紛争解決に際して訴訟を避け、調停など訴訟以外の解決方法を好んで用いる傾向があると言われます。アメリカと比べて、第一審の民事裁判の件数や弁護士の数、人口比で約二十分の一だそうです。なぜ日本人は訴訟を好まないのか。これには、日本の法律では、弁護士費用が原則として勝訴者の持ち出しになり、訴訟で争うことが引き合わないこと、不動産の競売がいわゆる競売ブローカーに牛耳られていて、差押不動産などが安く買い叩かれ、裁判・強制執行という正規の手続をとった権利者が報いられないことなどの理由もあげられており、昭和 54 年に制定された民事執行法は、競売ブローカーの締め出しをひとつの目的としています。

また庶民にとって裁判所が、なんとなく怖く、なじみが薄いことも日本人の訴訟嫌いの一因だと言われます。普通の人、裁判所というと刑事の裁判所を思い浮かべ、刑事の裁判所というと江戸時代のお白洲の恐ろしいイメージが残っていて、とうてい気軽に門をくぐる気持になれないというのです。さらに現在の民事裁判制度が外国から輸入されたもので、国民になじみが薄いという点も関係しているでしょう。一番身近なはずの民法の条文を見ても、「心裡留保」「物上代位」など難しげな字が並んでいます。これらは、漢字で教育された明治時代の法律家たちが、ラテン語・フランス語・ドイツ語などから苦心して訳したのですが、庶民にはなじみません。

① しかし以上のような理由だけでは、「日本人の訴訟嫌い」の説明としては、充分でないように思われます。裁判に時間や金がかかるのは、欧米でも多かれ少なかれ同じことで、英国にも「訴訟で確実なのは費用だけだ」とか（これは訴訟の勝負が水ものだという意味も含んでいます）、「愚者の金で弁護士の邸が建つ」とか、いろいろ格言があります。欧米でも、法律用語はやたらにラテン語が多く、庶民にはチンプンカンです。ゲルマン法（注 2）の基盤の上にローマ法（注 3）を受け容れたドイツ人の間では、ゲルマン法への郷愁とローマ法に対する違和感が長く残り、ナチ時代のローマ法排斥運動に連なりました。それに同じく我が国に輸入された制度でも、登記制度などはよく利用されています。

アフリカのウガンダという国に半農半牧のテソ族という部族が住んでいます。彼らと 2 年ほど一緒に生活した人類学者の長島信弘氏は、次のように言っています。

近代的諸制度のなかでは、行政官としての首長制度がテソではまったく伝統的基盤をかき、そのため、下級首長の権限や義務について多くの誤解や、その結果としての紛争をひきおこしたのだが、裁判制度はほとんど何の抵抗もなく受け入れられたようである。……テソ人の裁判好きはイギリス人以上で、サブ＝カウンティでは週に一度三級判事による巡回裁判が開かれるが、いつも大勢の見物人が集まって被告や原告の言い分をやじったり、判決に賛否の反応をしめしたりする。テソ人は「かかわり合いになること」をあまり気にしない。証人さがしはむずかしくないし、また、ちょっとしたことでもすぐに訴訟する。息子が 5 シリング返さないからといって訴えた父親、友人が酔っぱらってつまづきラジオをこわしたから賠償せよと訴えた男など、事前にまるくおさめる努力はそれほどはらわないのである。夫婦げんかさえ、パリッシュ・チーフやサブ＝カウンティ・チーフのところに駆けこみ訴えをする妻も少なくない。

（『テソ民族誌』〔中公新書〕）

② 素地があれば、伝統的基盤がない制度でも定着するのです。この文章の中に、テソ人の訴訟好きの反面として、日本人の訴訟嫌いの理由の一端も示されています。すなわち日本人は「かかわり合いにな

ること」を気にし、証人を捜すのが難しく、事前にまるくおさめることに、大きな努力を払うのです。思うに日本人は、親類・知り合い・同窓生・会社の関係者・同郷人など、何らかの「縁」のある人との関係を大切にし、その反面「縁もゆかりもない他人」には気を許さず、冷淡で冷酷に振る舞う傾向があるようです。だから裁判官に紛争の解決を委ねず、知人に不利な証言をすることをいやがり、知り合いの第三者の調停を好むのではないのでしょうか。また従来日本人は「よそ者」に対しては、自分より上位と見なせば一応礼儀正しいが最後まで気を許さず、下位と見なせば、苛酷で差別的な態度をとるとして、批判されてきましたが、これも「縁」を重んずる日本人の生き方と関係があります。一言にして言えば、「縁」ある人には性善説的に、「縁」無き人には性悪説的に振る舞うのです。

……中略……

③日本人の訴訟嫌いを批判する人々が常に引用する文献に、ルドルフ・フォン・イェーリングというドイツの法学者の『権利のための闘争』という（講演を基礎とした）本があります。その中で彼は次のようなことを言っています。

英国人の旅行者は宿屋や馬車曳きに金を欺し取られると、滞在の日程を延ばし、旅行日程を遅らせて、とるべき金の十倍もの費用をかけてこれと争う。あたかも古き英国の権利を守ろうとするかのように。人々は彼を理解せずには笑うが、それは残念なことだ。なぜなら彼が守った数グルデンの錢のうち古き英国が付いているのだから。

前の文章の中の「古き英国の権利」と訳した箇所を、どう訳すかはなかなか難しい問題です。なぜならラテン語の「ユス」、フランス語の「ドロワ」、ドイツ語の「レヒト」は、「正義」「法」「権利」という 3 つの意味を持っているからです。実はこの英国人の旅行者は、英国の正義、英国の法、英国の権利を同時に守っているのではないのでしょうか。「権利のための闘争」という主張の趣旨は、「権利を守ることは、単なる私益の擁護ではなく、正義と法を守ることである。したがって、権利のために闘うことは、社会に対する義務でもある。面倒臭いとか、費用がかかるとかという理由で、権利のための闘争を放棄することは、社会の不正を許容し、不正に加担することで、社会人としての義務に反するのだ」というところにあります。

④日本人の訴訟嫌いは、自分や自分に縁のある人々の利益のために公共的なものを犠牲にする面を持っています。それは「内」での性善、「外」での性悪という、伝統的な日本人の在り方と無関係ではないと思われます。

出典：長尾龍一『法学ことはじめ〔新版〕』（慈学社出版、2007年）102～107頁（問題作成において、文章・見出しなどを一部省略・修正した。）

注 1：アメリカ連邦最高裁判所第 15 代長官のウォーレン・E・バーガー。

注 2：継受されたローマ法との対比で、ドイツ固有法およびその諸原理を指す概念。

注 3：紀元前 8 世紀中葉の建国以来、6 世紀前半のユースティニアヌス帝の立法事業に至るローマ社会において形成された法をいう。11 世紀イタリアにおいてローマ法が復活して、ヨーロッパ大陸（とくにドイツ）において、ローマ法の継受という現象が生じた。

〔設問 1〕下線部①に関して、筆者が考える「日本人の訴訟嫌い」の理由を、文中の言葉を用いて 50 字以内で説明しなさい。

[設問 2] 下線部②は具体的にどのようなことを意味しているのか、文中の言葉を用いて 80 字以内で説明しなさい。

[設問 3] 下線部③に関して、「日本人の訴訟嫌い」を批判する人々はなぜ批判するのか、文中の言葉を用いて 120 字以内で説明しなさい。

[設問 4] 下線部④に関して、公共的なものを犠牲にする面を改善するために必要なことは何か、あなたの意見を 300 字以内で述べなさい。

【問題 2】 次の文章を読んで、[設問 1] から [設問 5] に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

Progress in health has been as impressive as progress in wealth. In the past century, life expectancy in the rich countries increased by thirty years, and it continues to increase today by two or three years every ten years. Children who would have died before their fifth birthdays now live into old age, and middle-aged adults who once would have died of heart disease now live to see their grandchildren grow up and go to college. Of all the things that make life worth living, extra years of life are surely among the most precious.

Here too progress has opened up inequalities. The knowledge that cigarette smoking kills has saved millions of lives in the past fifty years, yet it was educated, richer professionals who were the first to quit, opening up a health gap between (ア). That germs caused disease was new knowledge around 1900, and professionals and educated people were the first to put that knowledge into practice. We have known for the best part of a century how to use vaccines and antibiotics to stop children from (イ), yet around two million children still die every year from vaccine-preventable disease. Rich people are treated in world-class modern medical facilities in São Paulo or Delhi while, a mile or two away, poor children are dying of malnutrition and easily preventable disease. The explanation for why progress should be so uneven differs from case to case; ①the reason why poor people are more likely to smoke is not the same as the reason why so many poor children are not vaccinated. These accounts are to come, but for now the point is simply that health progress creates gaps in health just as material progress creates gaps in living standards.

These “health inequalities” are one of the great injustices of the world today. When new inventions or new knowledge comes along, *someone* has to be the first to benefit, and the inequalities that come with waiting for a while are a reasonable price to pay. It would be absurd to wish that knowledge about the health effects of smoking had been suppressed so as to prevent new health inequalities. Yet poor people are still more likely to smoke, and ②the children who are dying today in Africa would not have died in France or the United States even sixty years ago. ③Why do these inequalities persist, and what can be done about them?

出典 : Angus Deaton (2013) *The Great Escape—Health, Wealth, and the Origins of Inequality*, Princeton University Press, pp. 6-7 より抜粋。(問題作成において、見出しを一部省略した。)

注 :

life expectancy 平均余命

grandchildren 孫

inequalities 格差

germs 細菌

vaccines ワクチン

antibiotics 抗生物質

preventable 予防できる

São Paulo サンパウロ

Delhi デリー

malnutrition 栄養不良

are not vaccinated ワクチンの接種が行われない

living standards 生活水準

absurd ばかげた

suppressed 隠蔽される

[設問 1] 本文中の (ア) に当てはまる表現を文脈に合うよう以下から一つ選びなさい。

1. male and female
2. rich and poor
3. young and old
4. rural and urban

[設問 2] 本文中の (イ) に当てはまる表現を文脈に合うよう以下から一つ選びなさい。

1. surviving
2. eating
3. dying
4. caring

[設問 3] 本文中下線部①を 50 字以内で和訳しなさい。

[設問 4] 本文中下線部②を 50 字以内で和訳しなさい。

[設問 5] 本文中下線部③は健康格差がなくなる理由と私たちができる対応策をたずねている。理由と対応策、そして、その対応策を実施する際に注意すべき点について、あなたの見解を 250 字以内で具体的に述べなさい。対応策の実施主体は、個人や企業、非営利組織、政府、国際機関など、いずれで考えても良い。







下書き用紙